

## 事業名 親子の心に寄り添う居場所づくり事業

事業主体 名称：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

事業実施場所 住所：岡山県備前市伊部1455

～事業を始めるにあたって～

### 【目的】

- ・子ども達の不登校になる要因は様々であり、ひとりひとりの事情に寄り添った支援が必要であることを学ぶと共に、子どもの自己肯定感を育みながら支援者として子どもや家庭を支えるためにできることを考える機会とする。
- ・園や学校へ通いづらく、休みがちになっている子ども達を持つ親同士が、少人数の守られた空間の中で、同世代の同じ悩みを持つ者同士で気持ちを分かち合いながら話し合い、相談できるつながりづくりができるよう支援していく。
- ・「不登校支援について考える講演会の開催」を通して学習した支援者が、個々に寄り添うかわりをさらに充実させ、心の回復までのプロセスをサポートさせていく場として、これまで以上に機能を高めていく。また、園や学校以外の地域に出向いてみたいと感じた子ども達や、その他園や学校へ通いづらく休みがちになっている子ども達が、学校や自宅以外の第3の居場所として、様々な親子が集う拠点で過ごし、異年齢の子ども達との交流、親や先生以外の大人と接して温かいかかわりを持つことで、心が元気になったり、地域ともつながるきっかけづくりとなる。また、「不登校の子どもをもつ親の居場所」の開催を通して、子どもに一番近い親自身が、自分の思いや悩みを話せる場を持つことで、抱え込んでいた不安な気持ちが楽になり、少し先の見通しが持てるようにしていく。

### 【概要・方法】

<1>不登校支援について考える講演会の開催

<2>不登校の子どもを持つ親の居場所「そらのいろ」の開催

- ・第1回 対象：幼児期～小・中学生の保護者
- ・第2回 対象：小学生～高校生の保護者

<3>不登校について困り感を感じている親子に寄り添い、相談を受けていった。相談内容によっては、一般社団法人HATの明橋大二先生に相談し、支援につなげた。

### 【募集方法】

- ・案内チラシの配布
- ・ブログ・フェイスブック・インスタグラム等SNSによる情報発信

- ・備前市地域子育て支援拠点「わくわくる一む」「みついし子育てひろば」「西鶴山子育てひろば」を利用して下さっている方で、日頃から不登校について悩みを相談受けている保護者への声がけ

～事業実施内容～

< 1 > 不登校支援について考える講演会の開催

- ①事業名 不登校の子どもと親の居場所づくりに向けた支援者育成事業
- ②参加人数 不登校の悩みを抱える保護者、教育関係者、子育て支援者、行政関係者、子育て中の保護者など71名
- ③日時 令和5年12月10日(日) 10:00～12:00
- ④場所 岡山県生涯学習センター2F大研修室
- ⑤内容 講師：明橋大二氏(精神科医・一般社団法人HAT代表理事)  
内容：不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス

～不登校の理解と回復の道筋、時期別のかかわり方～



⑥活動の成果等

専門家の講師を招いての講演会では、不登校の悩みを抱える保護者や関係者71名が参加され、不登校のお子さんへの理解や関り方などについて学び合うことができた。

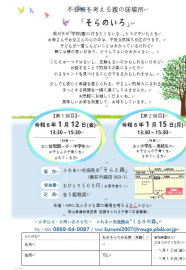
(参加者のアンケートより抜粋)

- ・子どもが悪いわけでも、親の育て方が悪かったわけでもないという言葉は本当に心が救われました。今日から息子との向き合い方が変わるような気がします。
- ・不登校は親のせいでもなく、愛情不足などでもないと知って、安心した。親も子も自己肯定感を高めていくことが大事であるということをお伝え合っていたらいいと思った。
- ・小学校の支援員として働き始め、いろいろな性格の子と関わる様になりました。不登校の原因に学校の環境が関わることもあるので、今日学んだことを生かし、その部分を解消できるサポートが出来ればと思います。
- ・子どもと親の居場所が必要と考えていたが、その場を設けたとして何をもとに考えたらよいか分からず…という感じでしたが、当事者ともに歩んでいける安心感のある居場所を作りたいと思いました。

< 2 > 不登校の子どもをもつ親の居場所「そらのいろ」の開催

- ①事業名 不登校の子どもをもつ親の居場所づくり(第1回)
- ②参加人数 3名(対象：幼児期～小・中学生の保護者)
- ③日時 令和6年1月12日(金) 13:30～15:30
- ④場所 ふれあい交流拠点「そらと森」
- ⑤内容 内容：不登校の子どもをもつ親の居場所『そらのいろ』の開催(1回目)

## 不登校の子どもを持つ親の話し合いや情報交換



### ⑥活動の成果等

不登校気味の子どもをもつ親同士が、安心できる空間の中でお互いの気持ちを聴き合ったり、情報交換を行なうことができた。また、このような場の必要性を感じた。

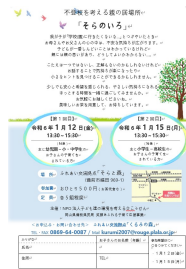
### ◎参加された感想

- ・お父さんのお話、親子でのやりとり、学校でのお話など、それぞれの方の葛藤して過ごされてきたお話を聞くことができ、自分も頑張っているなと思えたり、それぞれに頑張っていて勇気を頂きました。普段は中々わかってもらえないような話なので、ありがたかったです。
- ・少人数でお話しできてよかったです。しっかりお話できました。しゃべりすぎていましたらすみません。会場がすごく素敵です！また機会があれば、子どもの成長をお伝え出来たらいいなと思います。共感してもらえることって、心が温かくなりますね！
- ・これから小学校入学するので、今からのことがとても不安ですが、いろいろと経験されている方々のお話を聞くことができ、少し心構えができた気がします。一人で抱え込むことも多いので、話せる場所は貴重だと思いました。ありがとうございました。

### ◎今後「そらのいろ」に希望すること

- ・当事者でないとわからない気持ちを共有できてありがたいなと思いました。学校以外の居場所の存在を知りたいです。
- ・いろんな方に来てもらえたらいいなと思うので、続けられるといいなと思います。

- |       |  |
|-------|--|
| ①事業名  | 不登校の子どもをもつ親の居場所づくり（第2回）                                    |
| ②参加人数 | 4名（対象：小学生～高校生の保護者）   |
| ③日時   | 令和6年1月15日（月）13:30～15:30                                    |
| ④場所   | ふれあい交流拠点「そらと森」   |
| ⑤内容   | 内容：不登校の子どもをもつ親の居場所『そらのいろ』の開催（2回目）<br>不登校の子どもを持つ親の話し合いや情報交換 |



### ⑥活動の成果等

中・高校生の不登校や行き渋りの子どもをもつ親同士が、子どもの未来に対する不安な気持ちを話し、情報交換しながら現状に向き合う様子がみられた。

### ◎参加された感想

- ・ゆっくりとした時間の中で、みなさん勇気を出されて話を聞けたり話せたり、今日は特に共感できることが多く、嬉しかったです。
- ・みんなでお子さんの気持ちを想像しながら話したり、自分の気持ちを吐き出せたり、不登校を経験しているからこそ分かり合えることがたくさんあって、参加してよかったなあと思いました。
- ・話をできる場が中々なかったので、話を聞いて頂けたことがありがたかったです。吐き出せる場所があることは嬉しかったです。

### ◎今後「そらのいろ」に希望すること

- ・経験をされてこられた方のお話をぜひ、お聞きしたいです。
- ・また機会があったら参加してみたいです。先輩ママや不登校を経験したけど、今は楽しく過ごされている方のお話も聞いてみたいです。

< 3 > 不登校支援について困り感を感じている親子への子育て支援拠点での居場所づくり

①事業名 不登校の子どもとその親がいつでも訪れることができる子育て支援拠点での居場所づくり

②参加人数 ○不登校気味の子ども（園児、小中学生）が拠点を利用した件数：45名  
（夏休み、冬休み期間をのぞく）

○親からの相談件数：71件

③日時 令和5年7月上旬から令和6年2月上旬  
毎週火曜日から金曜日（隔週月・土曜日）

④場所 備前市地域子育て支援拠点「わくわくる一む」  
出張ひろば「みついし子育てひろば」  
出張ひろば「西鶴山子育てひろば」  
ひろばへの電話相談対応

⑤内容 今までも子育て支援の一つとして、子育て支援拠点で不登校やひきこもりの相談を受けているが、気軽に相談ができることをお伝えし、積極的に受け入れるようにした。また、現在、不登校について悩みながら子育てをされている園児・小中学生・高校生の子どもを持つ親への相談支援を継続的に行なった。

### ⑥活動の成果等

拠点や出張ひろばに訪れる不登校の子ども及び親に寄り添い、相談を受けていくことで困り感を知ることができた。また、子どもが家庭や園・学校以外の場を知る機会となり、自分自身を受け入れてもらうことで、時折、園や学校に行ける様子もみられた。

○相談内容：

- ・園や小中学校への行きしぶり
- ・不登校中の自宅で過ごす様子のかかわり方、見守り方
- ・夫婦の不登校に対しての考え方の違い



不登校の専門家である講師をお呼びして講演会を開催したことにより、不登校のお子さんを取り巻く関係者が、現状から少しでも良くしようという思いで、当事者への理解や対応について学ぶことができた。また、告知早々に、申込みが途切れることなく続いたことから、不登校のお子さんを支援する具体的な方法や方向性を学んだり、情報を入手することの困難がうかがえる。親の居場所についても、不登校のお子さんを持つ親の気持ちや悩み、現状について出し合える場となったが、不登校という性質から長期的な場の開催と支援が求められていると感じる。今後も当事業を通して、当事者の親子が安心して過ごし、改善に向けて情報交換できる場を提供していきたい。